

成績・アスピレーション形成に影響する親子間葛藤の階層差に関する研究

○小西 凌 (三重大学大学院)

研究目的

本研究では、子どもが親に対して抱く反抗や葛藤が、子ども自身の成績やアスピレーションにどのように関連するのか、また反抗・葛藤の影響に階層差はあるのかを検討する。

これまでの階層研究や子育て研究において、親からの資本（経済資本・文化資本・社会関係資本）が子どもにどのように影響するかという、親から子への分析視角は主流と言えたが、子どもが親に対してどのような眼差しを向けているのか、それは発達にどのように影響があるのかという視角はほとんど見られなかった。本研究では、子どもの親に対するネガティブな主観に着目し、それが成績やアスピレーションに影響することがないのか検討を行う。次のように Research Question を設定する。

Research Question 1：子どもが親に抱く葛藤に階層差はあるのか

Research Question 2：子どもが親に抱く葛藤が成績やアスピレーションに与える影響はどのようなものか

Research Question 3：子どもが親に抱く葛藤が成績やアスピレーションに与える影響に階層差はあるのか

方法

使用するデータは、東京大学社会科学研究所・ベネッセ教育総合研究所が実施した「子どもの生活と学びに関する親子調査 2015-2019」の一部である。2018年に実施された中高生が解答する「子ども調査票」を用いる。

反抗（親にさからう）と葛藤（何にでもすぐに口出しをする/親子で意見が違うときは親の意見を優先する/約束したことを守ってくれない/気持ちをわかってくれない）に関する変数スコアを作成し、成績・アスピレーションを従属変数にした重回帰分析を行った。

分析結果

結果は次の通りである。RQ1に関して、SES（社会経済的地位、Highest SES、Middle SES、Lowest SES）と反抗また葛藤スコアの平均値比較を行った結果、子どもが親に抱く反抗・葛藤に階層差はほとんどないことが明らかになった。RQ2に関して、成績またはアスピレーションを従属変数にして重回帰分析を行った結果、成績に関して、親に対する反抗と葛藤は負の影響が確認できたが、アスピレーションに関する影響は統計的に有意ではなかった。RQ3に関して、成績に対する反抗・葛藤スコアの影響を、重回帰分析で検討した。反抗スコアは負に有意であり、交互作用項では、Highest SES×反抗スコアでは有意な結果はなく、Lowest SES×反抗スコアに有意に正の効果を示された。つまり、親に対する反抗は、上位（Highest）や中位（Middle）の階層において、成績に負の影響をもたらしやすいことを示している。次に葛藤スコアは負の有意な効果があり、交互作用項から、Highest SES×葛藤スコア、Lowest SES×葛藤スコアともに、統計的に有意ではなかった。つまり、葛藤はすべての階層に対して、負の影響をもたらすことがわかる。反抗スコア・葛藤スコアがアスピレーションに与える階層差は、統計的に有意な結果がでなかった。

考察では、反抗が階層の上位・中位の成績に強く効いたこと、反抗・葛藤ともにアスピレーションに有意な結果が出なかったことを中心に議論したい。

付記

二次分析に当たり、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJ データアーカイブから「子どもの生活と学びに関する親子調査 Wave1~4, 2015-2019」（ベネッセ教育総合研究所）の個票データの提供を受けました。

キーワード：親子間葛藤、成績やアスピレーション、階層差